

マイスター・ハイスクールだより

北海道教育庁学校教育局高校教育課
[令和4年度第1号] R4.7.15発行

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」(北海道静内農業高等学校)～

令和4年度 第1回運営委員会を開催

5月31日(火)、静内農業高校を会場に、令和4年度第1回運営委員会を開催しました。

開会に当たり、委員長の**大野町長**から「2年目となる今年度が一番重要だと思っていますので、皆様方からの助言をいただきながら、有意義な会議にしていきたい」と挨拶がありました。

委員会においては、**桑名副校長**から今年度の事業概要の説明があり、伴走者の**嶋本さん**からは、事業終了後の自走に向けて、他県の取組などの情報提供がありました。



桑名副校長(マイスター・ハイスクールCEO)による説明

「マイスター・ハイスクールビジョン(専門高校における人材育成計画の概要)」は、昨年度の第1回運営委員会において承認されており、これに基づいて本年度も各事業を計画しています。

今年度の事業概要図、マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員の配置、今年度の事業計画、重点事項、教育課程や評価方法の改善を図った点は、次のとおりです。

＜マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員の配置＞

マイスター・ハイスクールCEO	今年度から副校長として着任(常勤)
産業実務家教員	今年度、特別免許状を授与し、生産科学科馬事コースの授業を担当。獣医師。(週30時間勤務)

＜今年度の事業概要図＞



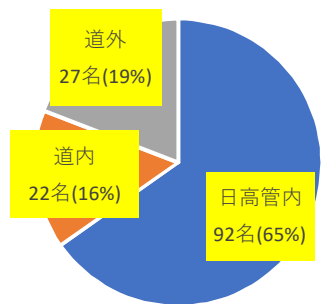
＜2年目の事業計画＞ テーマ『挑戦』

- 1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
- 2 研修(ICT、IoT)を活用している農業施設及び農業機械を実地視察、研修
- 3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 4 馬の仕事に必要な技術・資質が分かる達成表(『ホースマン・レベルアップ・チャート』)の作成
- 5 「うまキッズ探検隊(仮称)」を企画し、子どもに馬の魅力を伝えるイベントを実施
- 6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売の基礎研究
- 7 遠隔システムを活用した海外の学校との交流
- 8 キャリア・パスポートの活用(指定期間において継続して活用)
- 9 教育課程の変更及び指導内容等の改善・充実

＜今年度の重点事項＞

プロジェクト学習の充実	デュアル派遣実習の充実
<ul style="list-style-type: none">●年3回、助言を受けられる機会の構築<ul style="list-style-type: none">・年間計画の作成や実験、商品の企画の段階・取組状況や調査、実験、試作など、中間の段階(9月頃)・まとめや評価の段階(11月頃)●学科共通テーマを設定<ul style="list-style-type: none">食品科学科…地域資源を活用した商品開発生産科学科(園芸コース)…地域の基幹作物の収益性向上に関する研究生産科学科(馬事コース)…競走馬の生産、乗馬療育の研究	<ul style="list-style-type: none">●ガイダンス機能の充実(科目選択オリエンテーションの他に、担任や学科長との面談の実施)●目標設定、振り返りの充実●受入先との連携による生徒の成長を促す指導の充実(生徒の取組状況や適性の診断、就職に向けた改善点の把握)

＜生徒の出身地別在籍状況＞



<教育課程の改善>

学科	改善・充実した内容	理由
学科共通	「英語研究」、「数学研究」の設定 (2、3年・各1単位・希望者が履修)	獣医師志望者や4年制大学志望者に対する学習の強化を図るため
食品 科学科	「商品開発Ⅰ」(2年)2単位の設定 「商品開発Ⅱ」(3年)2単位の設定	「食品製造」「食品化学」「食品流通」「微生物利用」で学んだ知識を活用し、生徒の創造力、実践力等を高めるため
	デュアル派遣実習(2年)1単位の設定 (3年)4単位から5単位に増単	長期休業を活用した企業実習を実施するため
生産 科学科	履修の順序や単位数の調整	年次進行に伴い、発展的な内容となるよう再編するため

<評価方法の改善>

項目	内容
アンケート調査(生徒)	定量的目標及び定性的目標の評価・・・4段階で評価 【追加】自由記述(自己の変化として感じる部分の聞き取り)
アンケート調査(運営委員)	事業の内容、教育と指導、全体に関わる項目・・・4段階で評価
【追加】インタビュー調査(生徒)	本事業が、進路選択にどのように影響したか、直接聞き取り
【追加】アンケート調査(教職員)	生徒の変容の様子や、先生方自身のものの見方や考え方の変化についての項目

運営委員からの指導・助言

- 昨年度の事業評価で出された課題を踏まえ、取組の充実が図られているので、しっかりと実施してほしいと思います。
- 小中学生との交流は、農業高校生が学んでいる内容を知ってもらう、よい機会になるため、取組の充実を図ってほしいと思います。
- 発表の機会を町民に周知することは大事だと思います。
- 長期休業中のデュアル派遣実習の実施は、社会性を吸収できるよい機会だと感じています。
- 入学者数が増えたことにより、移動経費の負担が大きくなっているのが課題です。どのように継続していくのか、あと2年で考えていく必要があると思います。
- 内容が充実しすぎているのではないかと思いますので、詰め込みにならないようにしていただければと思います。
- 評価方法について、実際に卒業生が就職した企業からの評価についても、検討する余地があるのではないかと思います。
- 大学に進学した場合に授業についていけなくならないよう、高校で最低限の学力を身に付けておく必要があると思います。
- マイスター・ハイスクール事業を通じて、仕事や職について、いろいろと考えるきっかけになってくれればと思います。
- 民間企業にも、社会貢献が当たり前に求められている時代です。本事業への協力が社会貢献につながると考えますので、積極的に取り組んでいきたいと思っています。
- 現在は、事業の名の下に金銭的な支援がありますが、事業終了後、「この環境が続くのか。」「将来、どうなるのか。」が大変心配です。次に入学してくる1年生が同じような環境で教育が受けられるよう、維持してもらいたいと感じました。
- 資金が途絶えて事業を縮小しなければならないとなった場合、本事業の取組を見て入学してくる生徒にとってはダメージとなるため、今から準備をしていく必要があると思います。

事業終了後の自走に向けた情報提供

事業終了後の自走に向けて、本事業に係る「PDCAサイクル構築のための調査研究」を受託し、本校の伴走者となっている株式会社あしたの寺子屋 代表取締役 嶋本 勇介 氏から、様々な施策の組合せで財源確保している事例について、紹介していただきました。

本校として、継続事業を検討するとともに、どのような職業人材育成システムを構築するかが、今後の検討課題となります。

<紹介された事例>

- 1 都道府県・市町村での財源化
- 2 国の制度を活用した資金調達
(過疎債、地域おこし協力隊・集落支援員)
- 3 地元の個人・企業からの資金調達
- 4 関係人口・企業からの資金調達
(企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング)
- 5 製品販売による資金調達